



泌尿器科と婦人科双方からのアプローチで、女性のQOLを高める

2014年7月取材

岡山県岡山市
みやびウロギネクリニック 院長
井上 雅 先生

女性骨盤に関連する疾患(骨盤臓器脱・尿失禁など)を扱う分野をウロギネコロジー(Urogynecology)と言います。“ウロギネ(Uro-Gyne)”はUrology(泌尿器科)とGynecology(婦人科)、2つの略称を組み合わせた合成語です。井上雅先生は女性のQOLを高めるために、2013年にその専門クリニック、みやびウロギネクリニックを開設しました。

泌尿器科診療の中で婦人科的視点の必要性を実感

「膀胱と膣は近接する組織ですから、疾患的にも泌尿器科疾患と婦人科疾患は重なることが多いのです。泌尿器科の診療を続けているうちに、女性の患者さんを診療する際には、これを同時に診てあげられたいと思うようになりました」と言うように、泌尿器科専門医としての道を歩む中で、婦人科的視点の必要性を実感した井上先生は、その後、志願して総合病院の婦人科にも勤務しました。そこでトレーニングを積み、双方からの視点を習得した上でクリニックを開業したのです。「血尿だと思っていたら実は子宮頸がんだったとか、頻尿で困っていた人が膣炎だったというケースが多々あります。病院の専門外来は泌尿器科と婦人科が分かれていますので、一方だけだと原疾患が見逃されることがあるのです」。



通常の泌尿器科では、男性医師が圧倒的に多いことや、患者さんの抵抗感もあって内診台はほとんど使われません。同クリニックでは多用しており、婦人科疾患を見逃さないようにしています。

県外からもネットで調べて来院



女性患者が多いことから、スタッフも全員女性です。「これから切り開いていく分野なので、スタッフ共々勉強を怠らず、常に先進的な医療を提供したいですね」と井上先生。

同クリニックは開業してまだ1年未満ですが、患者さんは岡山県内はもちろん県外からも来院します。珍しい専門外来ということで地元の新聞やタウン誌に何度か取り上げられ、存在が認知されていることに加え、悩みを抱える患者さんがインターネットで同クリニックを探し当ててやって来るケースもあるそうです。井上先生の診療方針は、まず患者さんに触れることだと言います。「痛みを訴えられた時は必ず患部に触ります。それだけで安心する患者さんもいるんですよ。その上で話をよく聞き、おしっこのことだけでなく生理のことなど、さまざまな情報を引き出すようにしています」。さらには内診台を多用して患部を診察し、その結果手術が必要であれば、地元の病院の開放病床を利用して、自ら手術を行います。

“ウロギネ”という言葉を広めたい

泌尿器科疾患を疑い、さまざまな医療機関を受診しても症状が改善しなかったという患者さんが実は膣炎で、洗浄を施ただけでその日のうちに回復したということもあったそうです。「長期間にわたる悩みから解放され、患者さんは大喜びしていました。“ウロギネ”を掲げて本当に良かったと思う瞬間です」と井上先生。同クリニックは男性を制限しているわけではなく、一般泌尿器科として男性患者も1割弱います。クリニック名に“ウロギネ”を冠したのは、この言葉と領域を一般に浸透させたいという思いもあるからです。「“ウロギネ”が内科や泌尿器科と同レベルで誰もが分かる言葉として定着するといいですね。それまでは、まず診療に全力を傾け、実績を残していきたいと思います」と最後に井上先生は今後の抱負を語ってくれました。



“おしも”のことなので、人に話にくかったり、男性医師には相談しにくいこともあるでしょう。そんなとき気軽に相談してもらえる医師でありたいと思っています」と井上先生は語ります。